

# 神戸中学校区学校運営協議会全体会 意見交換（グループワーク）の概要

令和4年6月2日（木）

## 1 【意見交換のテーマ：あいさつ】

### <第1グループ>

- ・ボランティアとして、大人が子どもたちに声をかけ続けると、子どもたちも挨拶するようになる。大人たちから声をかけ続けることが大切と思う。
- ・元気よく挨拶してくれる子どもたちが増えてきている。一ノ宮小学校は、児童会、PTA、地域、学校支援ボランティアとともに「めざせ日本一あいさつする小学校」を目指して取り組んでいる。
- ・各交差点で交通ボランティア自然発生的に挨拶をしていることで、子どもたちは挨拶をするようになってきていると思う。中学生も大人から声を掛けたら挨拶を気持ちよく返してくれているので、良く挨拶していると認めることが大切と思う。
- ・挨拶はまずは家庭から家族同士でおはようから始まれば、家と違うところでも子どもたちは挨拶するようになるので、まずはご家庭での挨拶運動の取組をしていければと思う。

中学生も「おはよう」と言ってくれる生徒もいるのがうれしいと思う。

- ・保護者が他の子に注意や声掛けをしていいのだろうか？ 不審者気を使いすぎている現状がある。まずは、家庭から挨拶運動を始めるのがよいのではと思うので、家庭でおはようから始めたらどうかという「おはよう運動」を提案してみてもどうかと思う。

学校や職員や地域ボランティアの方が行ってくれていることを伝えていくことも大切ではないかと思うので、情報の発信を知らない人わからない人に伝えていくことがよいのではないかと思う。地域にはまちづくり協議会があるので、良い意味で情報共有を行い広報に力をかけたほうが効果的ではないかと思う。

- ・ボランティアの方々に子どもたちは感謝の気持ちを言葉で伝えてくれるが、保護者は何も言わないということがあり、残念に思うことがあった。
- ・家庭の教育が子どもたちの姿に反映するので、挨拶に関しても家庭への働きかけを行うことが大切ではないかと思う。
- ・すべての地域で挨拶運動の交流をしようと考えている。これから声をかけあっていきたいと思う。
- ・犬の散歩パトロールということの取組をしている地域があり、ボランティアでというよりもハードルを下げて、普段している犬の散歩のときに挨拶運動や子どもたちの見守りをしましょうという取組が必要だろう。

＊グループのまとめ

- 1 挨拶はまずは家庭内での挨拶が大切なので、家庭内での「おはよう」運動を提案したらどうかと思う。→おはよう運動
- 2 挨拶をしっかりしている子どもたち、頑張っている、良い行動をしている子どもたちを認めることをしていくこととその子どもたちの良い行動を親に伝えれば、親からも子どもを認め、挨拶をきっかけとしたより良いつながりになるので、地域の中で子どもの様子を伝える取り組みとして、挨拶で人と人とがつながる取り組みにしていけたらよいのではないかと思う。→子どもたちのより良い姿を親に伝える活動で仲間を増やす活動

<第2グループ>

- ・一ノ宮小では、「めざせ日本一あいさつができる小学校」を掲げて運動を進めている。各式、集会、児童会によるあいさつの啓発で成果を出している。
- ・河曲小では、学校運営協議会であいさつが課題となっている。家庭での挨拶も大事と考える。こちらから声をかけると返ってくるが、自発的な挨拶がない状況である。
- ・神戸小では、子どもたちの照れもあるが返ってくる。反応が薄いことも多い。また、挨拶に元気がないこともある。  
5月の生活目標として、児童があいさつ運動を行っている。
- ・神戸中では、自発的に挨拶してくれる生徒と「誰」という風に見られ挨拶してくれない生徒との差がある。
- ・地域で川柳を募集したところ、挨拶に関係するものが多かった。
- ・あいさつのねらいは、「人間関係、人と人とのコミュニケーションの第一歩」「声（あいさつ）を交わすと近しい、親しい人となる感じがする」「大人になっていくのにとっても大切なこと」と捉えられる。
- ・学校では、カリキュラムに挨拶と人権が入っていることがとてもよい。
- ・地域づくり協議会と連携していく必要がある。
- ・まちづくりの予算などで、旗、チラシ、ポスター、川柳募集などの活動に取り組んではどうか。

## 2 【意見交換のテーマ：交通安全】

### <第3グループ>

(河曲小学校)

- ・パトロール隊として朝の登校の見守りを行っている。
- ・ゾーン30の道は、速度を守らない車も多く、危険な場所がある。
- ・十宮町内を抜ける車も朝多い。子どもの登校時に危険なので県にも進入禁止を要請している。
- ・点滅信号のある場所で車が急に反応できない危険性がある。
- ・ガードパイプを設置してもらい、安全性が少し上がったところある。
- ・交通量が多い道を通学路として子どもが通っている。交差点でPTAやボランティアの力を借りて安全に登校できている。
- ・通学団に引率してくれるボランティアもいて、子どもたちの安全が守られている。

(一ノ宮小学校)

- ・学校、家庭、地域の取組として、交通安全教室の実施、地域も参加できる取組を考えている。警察も来ていただき、指導してもらおうことを考えている。
- ・毎週火曜日に登校指導を実施している。
- ・ヘルメットの着用80%以上を目指している。
- ・PTAの旗登板を実施している。
- ・一斉下校(学期に2回ほど)の実施時に、PTAや地域の方が引率している。
- ・地域としても登下校の見守りをしている。登校指導を行うことで、通学団の歩き方が変わってきている。
- ・白線の引き直しを市や県に要望している。
- ・横断歩道で、子どもが歩行者として止まっていた時の停車する率が少なく、ほとんど止まらない。どうすればよいかと思案している。

(神戸小)

- ・朝の集団登校は安全であるが、帰りの子どもは交通安全を守らず危険なことがある。
- ・下校時間の様子を見ることがあったが、ふざけている子も少なくない。
- ・中学生の自転車での交通事故が、今のところないようだが。
- ・駅前でスケボーで遊んでいる子もいるようで危険である。保護者も車で送り迎えしているようである。
- ・子どもたちが遊ぶ環境を作ってやれば危険なところ(道路)で遊んでしまいます。

(神戸中)

- ・横断歩道で停車することについて三重県は49%(全国7位)である。半分もないのに全国上位である。
- ・通勤時の運転(ながらスマホ)が多いので、企業側としては交通安全を伝えている。
- ・ドライブレコーダーを普及することで抑止力になり、意識を高めていくことになる。企業側、運転する側のマナーの問題である。
- ・自転車の乗り方もしっかり指導していかなければならない。加害者として責任を負うこともある。

- ・学校，企業，そして警察とつながる取組ができるとよい。

(全体)

- ・自転車のマナーについて，歩行者がいても平気で通り過ぎていく高校生や大人もいる。小中学校でルールを教える必要がある。交通安全教室で体験，学習させる。
- ・自転車が歩道を走ることの危険性があるが，車道を走ることにも危険なところがある。歩行者と自転車が安全に通ることができる場所の確認と標識の設置，道路幅の増設等をすべきである。

#### <第4グループ>

- ・神戸小学校では，交通安全教室を1，3，6年生で実施している。PTA実施による4年生での自転車教室は，本年度もコロナ禍を考慮し中止した。
- ・神戸中学校では，毎週月曜日に教員と交通委員会生徒が，校区内4か所であいさつ及び交通指導を実施している。PTAも毎月第一月曜日を基本に校区内4か所であいさつ及び交通指導を実施している。  
交通安全教室は，1年生対象に自転車の乗り方について市の協力を得て実施している。
- ・一ノ宮小学校では，交通安全教室を1，3，6年生で実施している。毎週火曜日には，教員が校区内2か所で交通指導を実施している。
- ・河曲小学校では，パトロール隊の方に毎朝，登校時の団に付き添っていただいている。河曲パトロール隊の総会も実施している。
- ・神戸小学校では，以前に交通安全パトロールの方々が集まる機会があったと聞いている。
- ・中学校の登下校は，時間帯に幅があるのでなかなか危険な交差点等で見守っていただくことが難しい状況もある。
- ・中学生で自転車事故が多くなる理由として，自転車が体格に応じていないことは考えられないか。  
荷物の重みなどでバランスを崩すこともあるのではないか。
- ・小学校では，中学校の自転車事故の事例を共有し，事例に応じた指導を行っていく必要がある。
- ・荷物の量や歩道上での接触事故など，時代に応じた事例に対処する交通安全指導も必要だと思う。
- ・パトロール隊については，参加者の高齢化が課題である。
- ・学校や家庭で，幼い時期から自転車の乗り方や交通安全について指導していくことが大切である。
- ・家庭でも交通安全について話し合ってもらうことが大切である。
- ・保護者も交通マナーを守り，子どもに示す必要がある。
- ・通学路の状況や危険箇所の実態を把握し，警察等に改善要望を行っていく必要がある。
- ・若い世代の方に取組をつなげていく必要がある。

### 3 【意見交換のテーマ：家庭学習】

#### <第5グループ>

- ・河曲小学校では、試験前に母親が計画を立てている状況がある。子ども自らが計画を立てることは難しく、やりたいことを優先的に行ってしまっている。
- ・小学校では、勉強よりも外で遊ぶことの方が楽しいと考えている。
- ・中学校では、1年生段階で家庭学習の癖をつけていくように努力している。保護者もあきらめずに子どもとともに取り組むことも大切で、保護者が「もういいや」となってしまわないようにすることが必要と思う。
- ・家庭学習の中では、本をたくさん読む時間も確保してほしいと思っている。
- ・家庭学習を子どもも保護者も働きかけると頑張るが、継続させることが難しいと感じている。家庭学習チェックシートなどがある期間は頑張る姿がある。
- ・教育集会所などで学習支援が行われている状況もある。
- ・家庭学習を子どもに伝えているが、スマホやテレビなどに向かう時間が多くなっている。
- ・小学校では、宿題をしていればOKといった受け止めもある。
- ・自主的に家庭学習に取り組む動機づけが求められていると思う。
- ・学童では、宿題を実施してから遊ぶように指導している。中1になると親子とも中学校での勉強に不安が大きくなるようだ。
- ・家庭学習が定着しているとは言い難い実態だと思う。
- ・保護者の考え方も多様化しているが、子どもが将来どのようになるのかを理解してもらうことが大切と思う。
- ・スマホやゲームなど、家の中には子どもを誘惑するものが多くなっている。
- ・すぐにあきらめてしまう傾向が見られている。
- ・通信やホームページで呼びかけていくことが大切だと思う。

#### <第6グループ>

- ・小学校3年生と5年生に子どもがいるが、中学校のことで特にあいさつや家庭学習のことが気になっている。
- ・家で学習というより、学ぶことの楽しさを知らない子どもが気になる。塾に行かせて安心している親も見受けられ、自分で学習する力を育むことが必要で、親と一緒に学び、親が背中を見せると子どももついてくるのではないか。
- ・地域での学習支援について話し合うことができればと思う。国際交流財団で子どもを見ているが、貧困から子どものことを考える余裕がない保護者がいる。飯野小学校で実施しているが、もっと身近なところで行えればと思っている。
- ・コロナ禍の前には、中学校の図書室で勉強会をボランティアで実施していた。地域で再開できるとよいがと思っている。
- ・保護者が見ることができずあぶれている子どもを見ていく必要がある。
- ・ボランティアで参加する人の高齢化が進んでいる。

- ・夏休みに学習会を実施しているが、本当に来てほしい子どもが来てくれない。
- ・シンプルに具体的なことを伝えていく必要があると思う。
- ・保護者が宿題を終えているかどうかを確認する必要があるのではないか。スマホの広がりも課題と思う。
- ・小さい時期からできる子どももいるが、差が大きいと感じている。

## 4 【意見交換のテーマ：子どもの健康】

### <第7グループ>

- ・コロナ禍で学校の行事がなくなったり、減ったりしている。行事でのクラスターのリスクがあることを考えてのことだが、少しずつ過去と同じではないにしろ行事や生活を取り戻しつつある。通常に戻ったということではなく、新しい形ができつつあるのではないかととらえている。
- ・マスク生活で、子ども同士が顔を見て、何を考えているのか判断できにくくなっているのではないか。また、感染が怖くてマスクが外せないといったことや、マスクを外した顔を見せたくないという子どもが出てきており心配している。
- ・給食は6年間で前後半に分けて12の目標を掲げている。給食は豊かな心と社会性を育む。保護者は、給食でしっかり栄養を摂っていると思い込んでいるが、実際には残している子どもが非常に多い実態が見られる。夕食で手を抜いてしまうと不健康な偏った食事になってしまう。給食の残量が多い現状を、ぜひ保護者の方にも伝えていきたい。食は大切だとわかっているが、意識して毎日の「食」を考えている家庭は少ないのではないか。今の保護者は、考え方も多様で統一した考えを持つことは難しい。食は、心と体を支え、つくっている。勉強、運動等、生活のすべてにつながっていくため大切にしていきたい。子どものために、何事にも一生懸命取り組んでくれる人がおり、そのような人の思いをつなげ、広げていきたい。

### <第8グループ>

(河曲小)

- ・コロナ禍で、外に出る機会が少なくなった。友だちの家に行く機会もなくなっている。
- ・手洗いは身についた。
- ・運動することが少なく、体重が増加している。
- ・運動不足になったり、習い事も運動教室も中止になったりしている。家の中では、運動しづらい。
- ・「マスクせずに遊んでいるわ。」といった目が気になる。
- ・ゲームが多くなり、ネットでのつながりが多くなった。言葉遣いも悪くなってきている。
- ・怒る機会が増えた。親のストレスが見られる。

(一ノ宮小)

- ・普段の給食から、朝食を摂れない子どもがいる。

(神戸小)

- ・家に帰っても食べるものがないといった現実がある。
- ・遅い時間にスーパーに行く親子もいる。個人の家庭のことなので難しいが、食糧支援など何かできないかと考えている。
- ・家庭によっては、なかなか連絡が取れない家庭もあり、勉強どころではない状況に

ある家庭もある。

- ・民生委員の方にお世話になっているが、高齢化も進んでおり、子どものための活動に困難な状況も見受けられる。

(神戸中)

- ・ソフトボールを投げられない子どもがいる。親子で、キャッチボールをしている姿を見かけることもなくなった。体力も低下してきていると思われる。
- ・コロナの影響が、様々なところに出ている。

(一ノ宮小)

- ・小学生でもキャッチボールの経験が少ない。
- ・地域の結びつきが弱くなってきており、保護者の教育力も心配される。

(河曲小)

- ・食事が摂れない子どもは、給食がなかったときはどうしていたのだろう。

(一ノ宮小)

- ・学力と生活は関連しており、塾に行かないとついていけないといった家庭も見られる。
- ・スポーツと生活も関連している。

(神戸小)

- ・保険証を持っていない家庭もある。

(河曲小)

- ・決まった時刻に起きているかを見ると、保護者が起こしていたり、通学が遠いことからとても早く起きていたりしている実態も見られている。
- ・通学時にトイレがなかったり、人通りの少ないところもあったり心配である。
- ・就寝は、時刻を決めて消灯するとよい。
- ・夜間でもLINEでつながっていたり、オンラインゲームをしていたりしている状況がある。

(一ノ宮小)

- ・学校でできることと、家庭で行うことをはっきりすることが必要である。